

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所および大阪証券取引所
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.daiso.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。
- 大阪証券取引所は、平成25年7月16日をもって東京証券取引所と市場の統合を行う予定のため、同日以降当社の上場証券取引所は東京証券取引所となります。

単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(1,000株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.daiso.co.jp/>



トップページ

株主のみなさまへ

第158期 報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで



化学でもっといいこと。

 **ダイソー株式会社**
DAISO

証券コード 4046 <http://www.daiso.co.jp/>



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループでは、第158期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

平成25年6月

代表取締役
社長執行役員 **佐藤 存**

第158期の業績概要

当期のわが国経済は、震災復興需要や円高の修正を背景とした輸出環境の改善などにより、景気回復の動きが見られましたものの、欧州景気の低迷やアジアを中心とする新興国の成長鈍化懸念、原燃料価格の高騰などを背景に出口の見出しにくい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは、中期経営計画『DYNAMIC ACTION-13』の2年目を迎え、コア事業の強化およびグローバル戦略の推進を中心に積極的な事業展開を図ってまいりました結果、当連結会計年度の売上高は831億4千9百万円と前期比0.8%の増加となりました。

利益面においても、機能化学品の伸長により、営業利益は45億3千8百万円と前期比11.2%の増加、経常利益は為替差損益の影響もあり50億2千5百万円と前期比18.3%の増加となりました。当期純利益も投資有価証券評価損や税制改正にともなう繰延税金資産取り崩しがなかったため前期比48.8%増加の28億8千8百万円となりました。

なお、期末配当金につきましては、当期の業績と今後の事業展開を総合的に勘案するとともに安定的な配当の継続性も考慮しました結果、3.5円とし、中間配当金の3.5円とあわせ、1株につき年間7円とさせていただきます。

今後の対処すべき課題

今後のわが国経済は、エネルギーコストの増加や新興国景気の動向に加え、為替の変動などが懸念されます。しかしながら、政府の金融政策や経済政策の効果が徐々にあらわれ内需が底堅く推移することにより、緩やかな景気の回復が期待されております。一方、シェールガスに代表される資源・エネルギー革命や経済のさらなるグローバル化の進展により、産業構造が大きく変化することが予想されます。

このような情勢のもと、当社グループは、コア事業強化に向けた大型設備が稼働を開始し、アリルエーテル

類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂などの機能化学品の拡大をさらに図るとともに、グローバル競争力強化を目指した効率的経営を推進するため、レバレッジを効かせた他社とのアライアンスを推進してまいります。

また、当社グループは、環境・安全と製品の品質の確保につきましても、レスポンスブル・ケア活動とISO活動を通じて万全を期すとともに、省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

さらに、企業の社会的責任を重視し日々の事業活動において法令遵守に積極的に取り組むとともに、内部統制システムを強化することによりコンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

1. 私たちは 化学を中心とする事業を通じて より豊かな社会の実現に貢献します
2. 私たちは 世界に信頼される技術と製品を 創造します
3. 私たちは 情熱と誠意をもって 行動します

基礎化学品

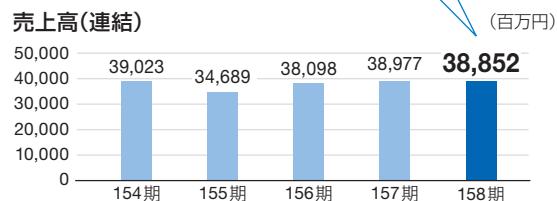


クロール・アルカリは、関連産業低迷により販売数量は減少しましたが、かせいソーダは受給バランスが比較的タイトに推移したため価格修正を実施し、売上高が増加しました。エピクロルヒドリンは、主用途である電子材料向けエポキシ樹脂の需要減少および市況軟化の影響により、売上高が減少しました。

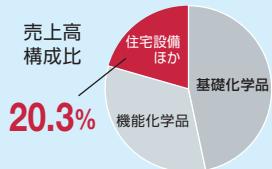
以上の結果、基礎化学品の売上高は、388億5千2百万円と前期比0.3%の減少となりました。

主要製品 かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、農薬原体、塗料原料、接着剤原料等

売上高 **388億5千2百万円**
0.3%減少



住宅設備ほか



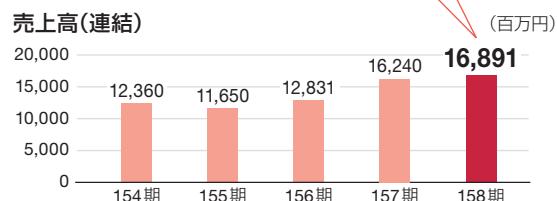
化粧板などのダップ加工材は、ファブレス化を実施し、生産体制の改善により競争力が強化され売上高が増加するとともに、住宅関連製品も堅調に推移し、売上高が増加しました。

エンジニアリング事業は、顧客の新規プラントの受注の減少や規模縮小により、売上高が減少しました。

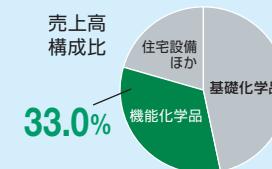
以上の結果、住宅設備ほかの売上高は、168億9千1百万円と前期比4.0%の増加となりました。

主要製品 ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設等

売上高 **168億9千1百万円**
4.0%増加



機能化学品



アリルエーテル類は、欧州経済の停滞および中国の景気減速により、販売数量が低調に推移し、売上高が減少しました。

エピクロルヒドリンゴムは、自動車用途向けは堅調に推移しましたが、OA機器用途向けが期後半から低調に推移し、売上高が減少しました。

ダップモノマーは欧州、米国向け輸出が低調に推移し、売上高が減少しましたが、ダップ樹脂についてはUVインキ用途向けが増加したため、売上高が増加しました。

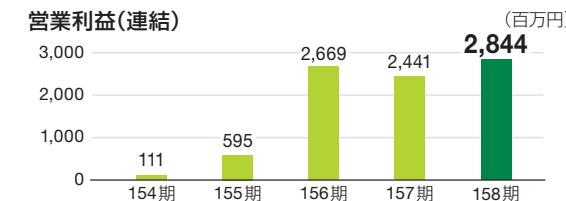
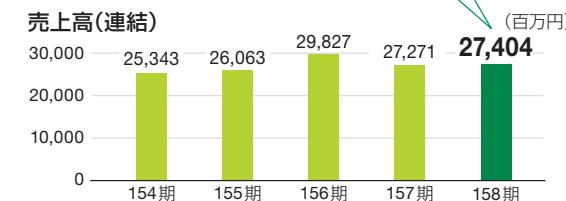
液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、医薬品精製用途向けで欧米を中心に輸出が好調に推移し、売上高が増加しました。

医薬品原薬・中間体は、神経関連薬中間体、抗菌剤中間体および感染症治療薬中間体などが低調でしたが、骨粗しょう症治療薬原薬の販売を開始したほか、抗潰瘍薬中間体、血管拡張剤中間体などが好調に推移し、売上高が増加しました。



各種医薬品の精製用として使用される液体クロマトグラフィー用シリカゲルと充填カラム

売上高 **274億4百万円**
0.5%増加



電極は、需要が回復した鉄鋼分野向けで増加しましたが、ソーダ電解設備メーカーからの受注減少により、売上高が減少しました。

カラーレジストは、スマートフォン、タブレット端末等の需要増加により、売上高が増加しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は、274億4百万円と前期比0.5%の増加となりました。

主要製品 アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、ガラス繊維、資源リサイクル等

2012年度は過去最高を更新 2013年度も躍進へ



代表取締役
社長執行役員 佐藤 存

Q. 2012年度の振り返りをお願いします。

年間を通してみれば、世界経済成長の鈍化にともなう販売数量減少など厳しい事業環境で推移しましたが、コア事業^(注1)の強化やグローバル戦略の推進などが功奏し、おかげさまで売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高となりました。

コスト面では岡山化成^(株)を100%子会社化したことによる水島工場の一体運営の成果、設備面では医薬関連事業(液体クロマトグラフィー用シリカゲル事業およびサンヨーファイン^(株)の医薬品原薬・中間体事業)の設備増設やガラス繊維を取り扱う化学品専門商社^(株)インペックスの買収などが収益に寄与しました。

(注1)コア事業

コア事業

基礎化学品

クロール・アルカリ製品群
かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、
次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、
塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス

・エピクロルヒドリン ・アリルクロライド

機能化学品

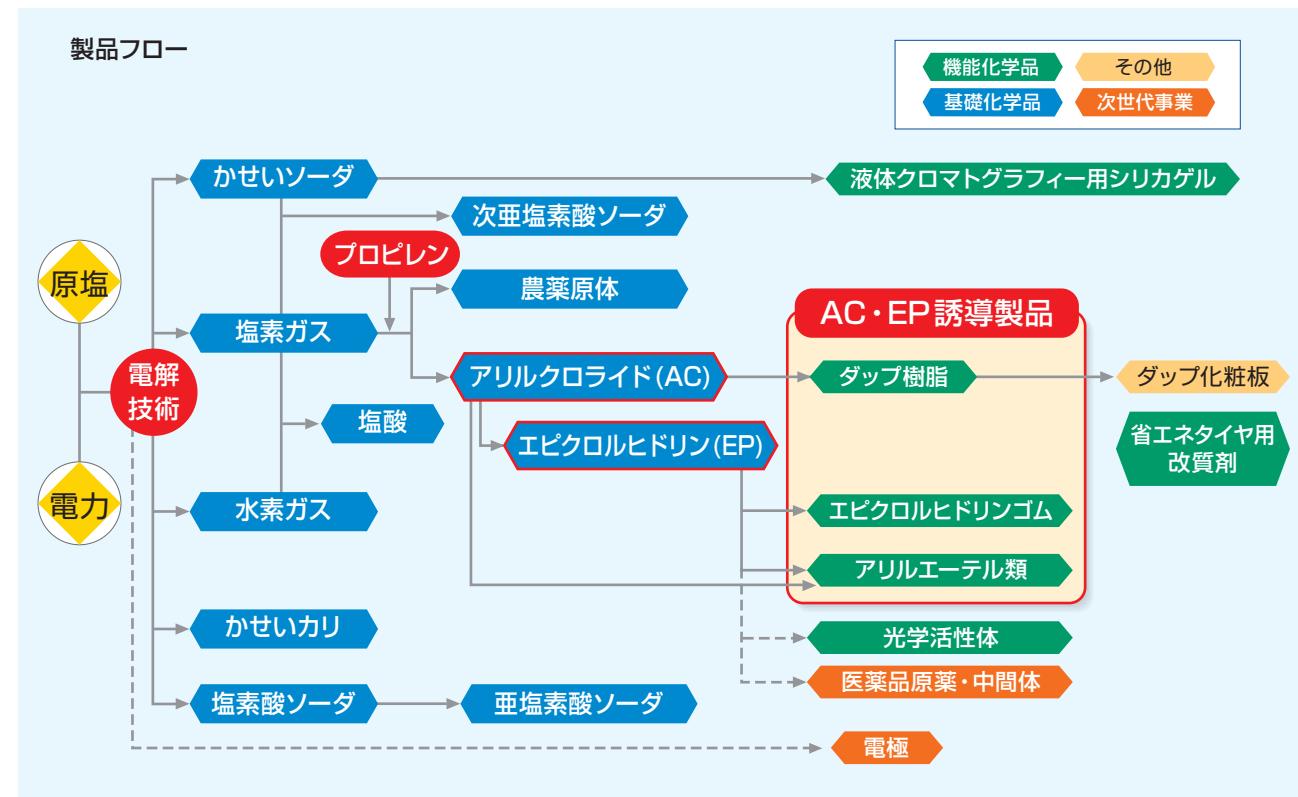
・アリルエーテル類
・エピクロルヒドリンゴム
・ダップ樹脂
・液体クロマトグラフィー用
シリカゲル
・医薬品原薬・中間体
・電極

Q. 2013年度の主な取り組みについて教えてください。

世界経済の緩やかな回復に支えられ、当社がこれまでに行ってきたコア事業のさらなる強化のために増設した川上原料のアリルクロライド(AC)、エピクロルヒドリン(EP)の大型設備が期半ばから稼働を開始します。これによって、AC・EP誘導製品^(注2)の拡大を図ります。

コスト面においては、原燃料価格上昇への抜本的な対策として、新製造プロセスの導入、先端技術導入による省エネ投資、物流コスト削減投資、多角的原料調達のための投資などを実施し、コスト低減にも注力します。

(注2)AC・EP誘導製品



Q. 2013年度のそれぞれのセグメントの状況についてお聞かせください。

まず、基礎化学品ですが、クロール・アルカリ事業^(注3)は、メイン原料となるのが、塩と電気であり、典型的な電力多消費型産業です。電力料金値上げなど原燃料価格の上昇によるコストアップに対しては、適切な販売価格への転嫁により、収益改善を図ります。生産コストにつきましても、岡山化成^(株)に導入する新型電解槽の稼働によって原価低減を行います。エピクロルヒドリン事業は、円安進行によって輸出の採算が改善すると同時に、

輸入品の減少もあり、主用途であるエポキシ樹脂^(注4)向けの需要回復も期待され、収益力は回復すると見えています。

機能化学品では、高いシェアを有する製品群^(注5)を中心に、グローバル市場でのシェアアップを図るとともに、海外拠点との連携を強化し、成長市場に軸足を置いた事業戦略に注力し、顧客ニーズに即応する製品開発を加速いたします。^(株)インパックスのガラス繊維は当社の機

能化学品とのシナジー効果を高めることで多様な提案ができると考えています。医薬品原薬・中間体事業は、大型案件の早期事業化、ジェネリック医薬品分野への展開に注力します。

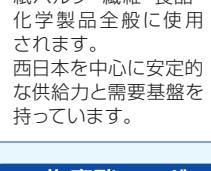
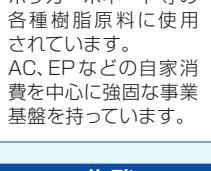
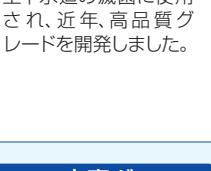
住宅設備ほかでは、住宅関連製品の販売に注力するとともにダイソーの化学技術の応用力を生かした製品の品揃えの充実も図ってまいります。

Q. 最後に、株主のみなさまへ向けてのメッセージをお願いします。

現在、アベノミクス効果によって、為替と株価は回復基調にありますが、実体経済への波及にはもう少し時間がかかりそうです。

しかしながら当社グループは、変化の激しい企業環境に対応すべく、設備投資、M&A、人材登用など様々な施策をタイムリーに実施し、業績のさらなる向上に努めてまいりますので、株主のみなさまにおかれましては引き続きご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

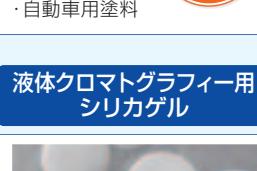
(注3) クロール・アルカリ事業

<p>かせいソーダ</p>  <p>主要用途 紙パルプ・繊維・食品・化学製品全般に使用されます。西日本を中心に安定的な供給力と需要基盤を持っています。</p>	<p>液化塩素・塩素ガス</p>  <p>主要用途 ポリカーボネート等の各種樹脂原料に使用されています。AC、EPなどの自家消費を中心に強固な事業基盤を持っています。</p>	<p>次亜塩素酸ソーダ</p>  <p>主要用途 上下水道の滅菌に使用され、近年、高品質グレードを開発しました。</p>
<p>塩素酸ソーダ</p>  <p>主要用途 パルプ漂白用などに使用されます。近年、塩素漂白からの切り替えにより需要が拡大しています。</p>	<p>塩酸</p>  <p>主要用途 中和・排水処理、各種工業原料として使用されています。環境負荷低減に貢献します。</p>	<p>水素ガス</p>  <p>主要用途 ロケット燃料、水素自動車燃料など各種水素化合物に使用されています。CO₂を排出しないクリーンエネルギーです。</p>

(注4) エポキシ樹脂

<p>電子部品</p>  <p>主要用途 パソコンの内部のプリント基板やその上にあるメモリーやCPUチップに使用されています。</p>
<p>塗料・接着剤</p>  <p>主要用途 防食工業用塗料原料として、船舶やプラント用にエポキシ塗料は用いられています。</p>
<p>土木・建築</p>  <p>主要用途 コンクリート劣化のひび割れ等を防ぐための注入剤として、橋梁の補修に使用されています。</p>

(注5) 高いシェアを有する高機能製品群

<p>エピクロルヒドリン</p>  <p>主要用途 ・半導体 ・積層板 ・自動車用塗料</p> <p>国内 1位</p>	<p>ダップ樹脂</p>  <p>主要用途 ・UV硬化インキ ・ホットスタンピング ・電子部品</p> <p>世界 1位</p>	<p>エピクロルヒドリンゴム</p>  <p>主要用途 ・自動車用 ・耐熱・耐油ホース ・OA機器用ゴムロール</p> <p>世界 1位</p>	<p>アリルエーテル類</p>  <p>主要用途 ・シランカップリング剤 ・高級木工塗料</p> <p>世界 1位</p>
<p>液体クロマトグラフィー用シリカゲル</p>  <p>主要用途 ・精密分析機器 ・医薬品精製</p> <p>国内 1位 世界 2位</p>	<p>省エネタイヤ用改質剤(カブラス)</p>  <p>主要用途 ・低燃費タイヤ</p> <p>国内 1位 世界 5位</p>	<p>医薬品原薬・中間体</p>  <p>主要用途 ・光学活性 ・エピクロルヒドリン誘導体</p> <p>国内 1位</p>	<p>電極</p>  <p>主要用途 ・長寿命めっき電極</p> <p>国内 1位 世界 2位</p>

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期末 (平成24年3月31日現在)	当連結会計期末 (平成25年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	39,505	41,555
固定資産	28,172	35,248
有形固定資産	16,006	20,784
無形固定資産	398	1,248
投資その他の資産	11,767	13,215
資産合計	67,677	76,804
負債の部		
流動負債	29,578	31,753
固定負債	3,256	6,804
負債合計	32,834	38,558
純資産の部		
株主資本	33,551	35,682
その他の包括利益累計額	1,224	2,526
新株予約権	66	37
純資産合計	34,843	38,246
負債純資産合計	67,677	76,804

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計期間 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
売上高	82,489	83,149
売上原価	68,646	68,879
売上総利益	13,842	14,269
販売費及び一般管理費	9,760	9,731
営業利益	4,082	4,538
営業外収益	358	610
営業外費用	194	123
経常利益	4,246	5,025
特別利益	4	30
特別損失	726	507
税金等調整前当期純利益	3,523	4,547
法人税、住民税及び事業税	1,297	1,303
法人税等調整額	285	355
当期純利益	1,940	2,888

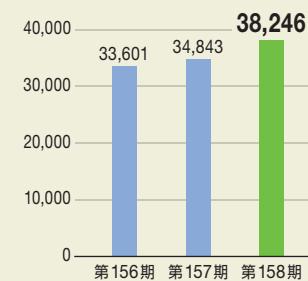
総資産

(単位:百万円)



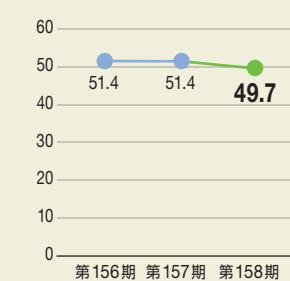
純資産

(単位:百万円)



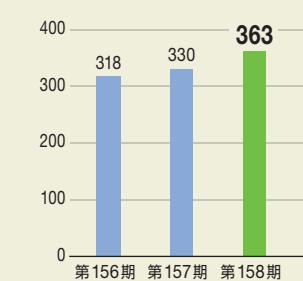
自己資本比率

(単位:%)



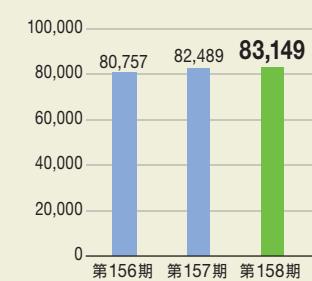
1株当たり純資産

(単位:円)



売上高

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



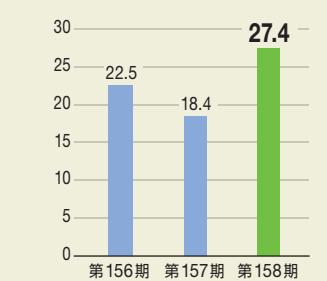
当期純利益

(単位:百万円)



1株当たり純利益

(単位:円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		当連結会計期間 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,950		4,711
投資活動によるキャッシュ・フロー		△2,340		△5,182
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,385		430
現金及び現金同等物に係る換算差額		△108		94
現金及び現金同等物の増減額		117		53
現金及び現金同等物の期首残高		5,764		5,881
現金及び現金同等物の期末残高		5,881		5,934

連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:百万円)

項目	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	その他の包括利益 累計額合計		
平成24年4月1日残高	10,882	9,394	14,923	△1,648	33,551	1,224	△0	1,224	66	34,843
連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△737		△737					△737
当期純利益			2,888		2,888					2,888
自己株式の取得				△19	△19					△19
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						1,303	△1	1,302	△29	1,272
連結会計期間中の変動額合計	—	—	2,150	△19	2,130	1,303	△1	1,302	△29	3,403
平成25年3月31日残高	10,882	9,394	17,074	△1,668	35,682	2,527	△1	2,526	37	38,246

(注)連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結株主資本等変動計算書に記載の金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

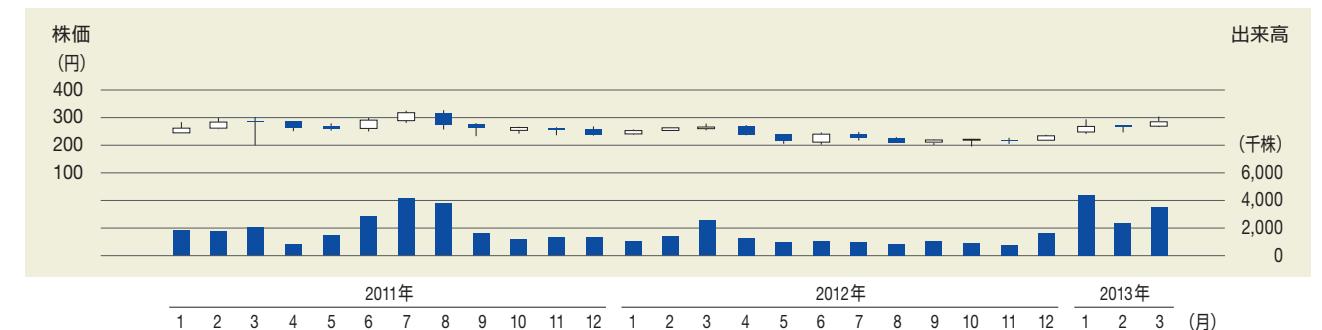
発行可能株式総数 ----- 300,000,000株
 発行済株式の総数 ----- 111,771,671株
 株主数 ----- 7,390名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本興亜損害保険株式会社	4,692	4.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社池田泉州銀行	4,240	4.02
株式会社福岡銀行	4,113	3.90
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
日本生命保険相互会社	3,542	3.36
帝人株式会社	3,393	3.22
株式会社みずほコーポレート銀行	3,348	3.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,205	3.04
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.78

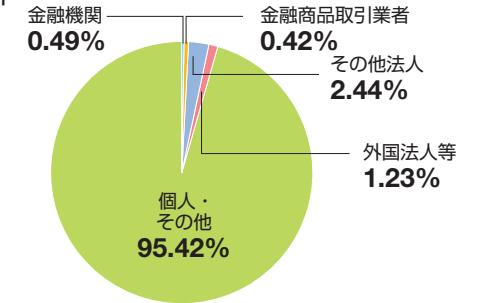
(注)出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(6,437,703株)を控除して計算しております。

株価および出来高の推移

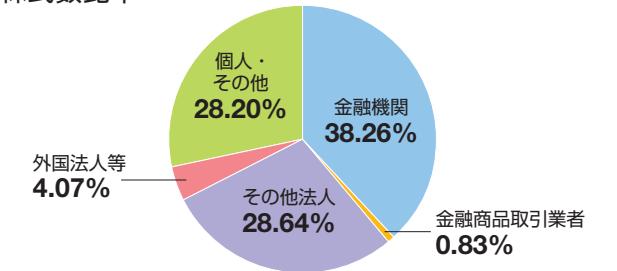


株主分布状況

株主数比率



株式数比率



(注)「個人・その他」には、当社の自己株としての保有分(5.76%)が含まれております。

社 名 ----- ダイソー株式会社
DAISO CO.,LTD.
U R L ----- <http://www.daiso.co.jp/>
創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日
資 本 金 ----- 10,882百万円
連結従業員数 ----- 798名

子会社等の状況

国内

会社名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造・販売
(株)インパックス	化学製品の販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源リサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
DSウェルフーズ(株)	健康食品の製造、加工販売
岡山化成(株)	化学製品の製造

海外

会社名	主要な事業内容
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台湾大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO Fine Chem USA, Inc.	シリカゲルの販売、カラムの製造販売
DAISO Fine Chem GmbH	シリカゲル、医薬品原薬・中間体の販売
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

役員 (平成25年6月27日)

[取締役・監査役]

代表取締役 社長執行役員	佐藤 存
取締役 専務執行役員	山下 光一
取締役 常務執行役員	柴野 美知朗
取締役 上席執行役員	鳥井 宗朝
取締役 上席執行役員	多木 宏行
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	福島 功
監査役(社外)	森 真二

[執行役員]

執行役員	竹尾 恒行
執行役員	平井 直
執行役員	寺田 健志
執行役員	門屋 純一
執行役員	中島 与志明
執行役員	雑賀 哲行
執行役員	馬場 一郎
執行役員	堀 登
執行役員	加藤 善徳
執行役員	森 裕治郎
執行役員	松本 敏
執行役員	古川 喜朗
執行役員	阿部 哲生
執行役員	西本 光伸

国内



海外

